

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) サービス提供、持続可能な資金調達、イノベーション

背景

人口の高齢化とともに、医療ニーズは変化をともないつつ増大しています。WHO神戸センター (WKC) は、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) 実現に向けての進展を加速するため、特に高齢化の観点から保健制度のイノベーションに関する研究を行っています。また、本研究が、特に低・中所得国のための具体的な政策に結びつくことを目指しています。サービス提供モデルは、保健制度の中核を成します。一人ひとりの個性に応じたアプローチを成功裏に実施している国はほとんどありません。代わりに、病院でのケアモデルに依存していますが、このモデルでは、慢性疾患や、身体や心の健康および認知機能を含む複雑な多疾患を有する患者に対応することはできません。

高齢者は若年者とくらべて一般的に医療サービスを利用する機会が多いため、一人あたりの医療費が高額になります。このため、政策立案者の間では、高齢化が際限のない医療費の伸びにつながり、その支出がやがては維持できなくなるのではないかと懸念が広がっています。同時に、高齢化は、医療財源を創出する仕組み、特に給与から差し引かれる保険料に依存するシステムに影響する可能性があるため、保健や社会サービスを賄うのに十分かつ安定した財源を確保できるのかという懸念が生じることも考えられます。WKCでは、このようなテーマに加えて、医療費の伸びに影響を及ぼす政策の選択肢や財源創出能力の調査に努めています。イノベーションは、政策、制度、技術のいずれにあっても新しい方法やアプローチとして広く定義されており、アイデアをUHC実現に向けた行動へ転換する機会をもたらします。WKCでは分野横断的なイノベーションに着目し、サービス提供や資金調達におけるイノベーションを重視した研究に取り組んでいます。

主要研究分野

1. 柔軟性に富み、高齢化社会に継続的かつ革新的な形で適応し、多疾患にも対処しうるサービス提供モデルを評価する
2. 保健制度が疾病負荷の変化および平均寿命の伸びに対応できるように、質の高いケアの促進につながる国家レベルの政策および制度のイノベーションに関するエビデンスを提供する
3. 高齢者が自身の治療やケアを自ら選択できるよう支援するためのイノベーション、また、その適用と拡大による影響を明らかにする
4. 高齢化社会が財源確保や医療費の支出に与える影響を検討し、各国がどのように適応し、政策調整を行ってきたかを把握する

進捗報告 (2019~2020 年)

2019~2020 年に終了した研究の成果 (5 プロジェクト)

一部のプロジェクトは 2017 年に開始され、2019 年に完了しました。介護分野における外国人技能実習のための ICF (国際生活機能分類) を基盤とした評価ツールの開発 (兵庫県立大学、国立保健医療科学院、2017~2019 年) では、国際生活機能分類 (ICF) を用いて日本の技能実習制度を評価しました。ICF は、既存のツールを統合して他国にも適用可能な新たな手法を構築するためのガイドとしても活用されました。下記 2 件のプロジェクトでは、支援機器をテーマに研究が実施されました。1 つ目のプロジェクト、日本の長寿者に学ぶ支援技術の利活用の把握と他国での利用に向けた示唆 (和歌山県立医科大学、2017~2019 年) では、転倒を減らし、日常生活動作 (ADL) を改善するための身体活動についての情報を提供するアルゴリズムを開発しました。2 つ目のプロジェクト、日本の長寿者に学ぶ支援機器の利活用 (東京大学、大阪大学、2017~2019 年) では、長寿者 (90 歳以上) の支援機器の使用頻度を調べ、支援機器がどのように利用されているかを把握しました。このプロジェクトでは、視覚や動作改善のために、UHC の一環として

含まれるべき必要不可欠な技術を特定しました。完了した研究プロジェクトについては、それぞれ開始時と終了時に事業概要が作成されました。

2017 年には、他国にも活用可能な、非感染性疾患の予防・管理プログラムの成功事例に関するシステムレビューが始まりました。本プロジェクト、UHC の実現に向けたアジアにおける非感染性疾患の予防と管理に関して効果的な保健医療制度の効果に関する研究（国立長寿医療研究センター（日本）、2017～2019 年）では、非感染性疾患の病態に対する地域の介入や健康増進の有用性についての検証を目的としており、研究者は学術論文を作成中です。

WKC スタッフによる、世界の高齢者が抱える健康・非健康関連ニーズへの対応において地域リソースがどのように公的医療サービスとつながっているかに関する研究は、2020 年に完了しました。この研究は、地域社会そのものが健康およびセルフケアのための多くのリソースを有していることから、コミュニティが一次医療サービスの不可欠な一部たるべきことを示唆しています。このことは、一次医療制度が持続可能なものとなり、家庭やコミュニティの高齢者に適切に人を中心としたケアを提供する場合に、特に重要です。本研究の論文は科学ジャーナルに投稿されました。

進行中の研究（2018～2021 年）と期待される成果（11 プロジェクト）

2018～2019 年、WKC は ASEAN 諸国を対象に一連の研究プロジェクトを立ち上げました。サービス提供モデルを研究し、保健制度が高齢化にどのように適応しているかについて調査研究を実施しています。以下の 6 件の研究プロジェクトではプロジェクト終了時に概要をとりまとめ、学術誌での成果発表、他国への示唆を盛り込んだワーキングペーパーの発表を行う予定です。

フィリピン、ベトナム、日本の研究者からなるチームは、高齢者向けの保健医療および社会的ケアを改善するための専門職連携教育の開発（フィリピン大学、東京医科歯科大学、兵庫県立大学、2018～2020 年）について研究しています。本研究の目的は、フィリピンやベトナムの医療従事者のための能力別専門職連携トレーニングプログラムを開発することで、他の低・中所得国への適用も見込まれています。

シンガポールの公営賃貸住宅に住む高リスク高齢者の新しい強化型ケア共同体モデルの評価（Duke-NUS 医学大学院、シンガポール総合病院、2019～2022 年）に関する研究プロジェクトでは、貧しい高リスク高齢者のための地域密着型ケアサービスについて綿密な評価を実施します。シンガポールとカンボジアのパートナーシップによるプロジェクト、カンボジアにおける非感染性疾患の予防および管理の様態に関する研究（Duke-NUS 医学大学院、KHANA 公衆衛生リサーチセンター（カンボジア）、2019～2021 年）では、既存のリソースを元に急性期から慢性期ケアへ移行できるようにするための保健制度の強化を目的とした研究が進行中です。研究成果は、地区レベルの具体的なプログラムへの活用が期待されています。

持続可能な社会・保健制度構築のためのラオス各地における 60 歳以上の高齢者の認知障害有病率調査

（ラオス熱帯医学・公衆衛生研究所、2019～2021 年）では、主要な情報提供者に対する聞き取り調査によるコミュニティベースの横断的研究が、国内 6 県を対象に行われています。このプロジェクトでは、高齢者の認知障害有病率と保健制度の対応状況の把握を目的としています。タイでは、高齢者のための地域包括型中間ケア（CIIC）サービスモデルのランダム化比較対照試験（順天堂大学、チェンマイ・ラチャパット大学、2019～2021 年）が実施されています。この研究では、地域包括型中間ケア施設とそのサービスが介護者のストレスに及ぼす影響、費用対効果、高齢者を介護する家族の能力について調査しています。ミャンマーの高齢者向けの保健医療・社会サービスの政策、プロセス、データのレビュー（ヤンゴン経済大学、マヒドン大学、2019～2020 年）においては、保健医療および社会サービスの計画に高齢者が含まれているかどうかを判断するために、ミャンマーで入手可能なデータや調整メカニズムを調査しています。国家保健計画に基づき、2030 年までに国民全体に不可欠な保健サービスを行き渡らせるための政府の取り組みについて報告される予定です。現在、研究論文が作成されています。

高齢者のニーズに対応したサービス提供モデルについては、研究レビューが世界的に行われています。進行性慢性疾患を有する高齢者のためのサービス提供モデルに関するプロジェクトでは第 1 フェーズが完了し、第 2 フェーズが進行中です。第 1 フェーズでは、高齢者の生活の質を最大限に高めるサービスモデルの研究（キングス・カレッジ・ロンドン、2018～2019 年）のためのシステマティック・レビューが行われました。この内容は Milbank Quarterly 誌（2019 年）に掲載されました。第 2 フェーズでは、システマティック・レビューから得られた情報を活用し、**進行性の慢性疾患を有する高齢者の生活の質と保健サービス利用を最適化するサービスモデルの構築**（キングス・カレッジ・ロンドン、南カリフォルニア大学、神戸大学、京都大学、2019～2021 年）に関する研究を行っています。研究チームは、政策概要の作成、研究知見のとりまとめ、出版発表のための原稿の作成を共同で行っています。

神戸市における認知症患者の管理（神戸大学、神戸市当局、2017～21）に関する複数年の研究プロジェクトは、認知症患者の管理に対応する保健医療システムを研究することを目的とします。この一連の研究は神戸市当局によって 2017 年に開始され、認知機能が低下している人をより良く管理するため、保健医療システムを強化し、政策を普及させることを目的としています。現在は 4 年目であり、2021 年に完了する予定です。このプロジェクトに関して 4 件のジャーナル論文が作成中であり、2020 年にドラフトが完成する予定です。さらに 2 件の論文のドラフトが 2021 年に完成します。このプロジェクトのデザインは、日本、オーストラリア、スイスで開催された会議で発表され、地方自治体と地方大学の共同研究による公共保健の研究のユニークなモデルとして、日本の地方自治体に共有されました（横浜ワークショップ、2019 年）。これは、神戸市の、認知症の人にやさしいまちづくり条例に貢献しました。神戸市は、認知症患者の管理への取り組みで、全国的に認識されています。研究結果を今後の政策にどのように活かすかについて、神戸市との対話が 9 月に開始します。

持続可能な資金調達の見点から、いくつかの共同研究が立ち上げられました。人口の高齢化が**保健医療の収入と支出に与える影響の調査（WHO 欧州保健制度・政策研究機構、WPRO、2018～2021）**のため、WHO 欧州保健制度・政策研究機構および WHO 西太平洋地域事務局（WPRO）とのパートナーシップを締結しました。この研究では、データを解析し、人口の高齢化が保健医療の収入創出と増大する支出に与える影響を明らかにしました。2019 年に、加齢の経済学に関する欧州保健制度・政策研究機構の論文シリーズの一部として、2 件の政策概要を WKC と欧州保健制度・政策研究機構が共同で作成しました。最初の論文では、支払われる報酬と医療関連資格を切り離すことの重要性が強調されています。次の論文では、人口の加齢に伴う医療費の増大、および費用の増大に対する国による管理に焦点がおかれています。いずれも、2019 年 10 月の G20 保健大臣会合のサイド・イベントで発表されました。**2020～21 年に向けて**、WKC は各国で健全な高齢化が医療費支出と経済の成長にどう影響するかを理解するため、WPRO および欧州保健制度・政策研究機構と連携して 6 か国（日本、モンゴル、韓国、ベトナム、オーストラリア、ニュージーランド）でケーススタディを実施しました。さらなる研究では、人口の加齢に伴う医療費を各国がどのように支払い得るかを研究する中で、収入の側面に焦点を当てます。このプロジェクトでは、健全な高齢化のための世界と地域双方の戦略に貢献する地域レポートを発行する予定です。

2018 年に、経済協力開発機構（OECD）との協働が開始され、2 つのフェーズが設定されました。フェーズ 1 では、**保健医療における価格設定と価格統制—UHC 推進のための教訓（OECD、WPRO、EURO と WPRO 地域の大学、2018～2021）**に関して WHO 出版物が発行されました。フェーズ 1 で、WKC は OECD と連携し、医療サービスの適用と財政保護を促進するための政策手段として価格設定を制度化するため、各国の医療サービスに対する価格設定と行われた投資に関して、研究結果のサマリーおよび 9 件のケーススタディ（日本を含む）を収録した書籍を出版しました。また、この本の中の研究を利用して、保健医療財政部および行政部と連携し、WHO 保健医療財政政策概要シリーズの一部として、価格設定と価格統制に関する概要を各国向けに発行しました。フェーズ 2 では、9 か国における高齢者介護のための価格設定と価格統制に焦点をおきました。2020～21 年に第 2 の WHO WKC/OECD の出版を共同で行い、9 件のケーススタディを発表する予定です。

新しい研究では、**欧州保健制度・政策研究機構および WHO 欧州事務所と連携し、介護に対する投資事例を作ることに**、世界的に焦点を当てます。この研究では調査を委託して、人口の加齢の下、すべての所得レ

ベルの国における、サービス提供の制度を高齢者のニーズと要求に適応させる方法、特に介護の持続可能なシステムを構築する場合について明らかにします。

出版物

書籍

Barber S.L., Ong P., Han Z.A. (2020) Long-Term Care in Ageing Populations. In: Haring R., Kickbusch I., Ganten D., Moeti M. (eds) Handbook of Global Health. Springer, Cham. https://doi.org/10.1007/978-3-030-05325-3_65-1

Barber SL, Lorenzoni L, Roubal T. Price setting and price regulation in health services. Geneva: The World Health Organization 2020 (Health Financing Policy Brief no. 7, <https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/331964>)

Barber SL, Lorenzoni L, Ong P. (2019) Price setting and price regulation in health care: lessons for advancing universal health coverage. WHO Centre for Health Development (Kobe, Japan), Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD). <https://apps.who.int/iris/handle/10665/325547>. License: CC BY-NC-SA 3.0 IGO

Ghiga I, Cochrane G, Lepetit L, Meads C, Pitchforth E. (2019) Understanding Community-Based Social Innovations for Healthy Ageing. Japan: WHO Centre for Health Development. https://extranet.who.int/kobe_centre/en/project-details/community-based-social-innovations

Kowal P, Garcon L, Ross A, Ong P. (2019) Chapter 13. Technology and Social Innovations. In Ageing in Asia: Contemporary Trends and Policy Issues, Eds, Kai Hong P, Lee Gan H, Mui Teng Y, World Scientific Series on Ageing in Asia. <https://www.worldscientific.com/worldscibooks/10.1142/10585>

学術論文

Pitchforth et al. (2020) The effectiveness of community-based social innovations (CBSIs) for healthy ageing in middle- and high-income countries: a systematic review. *Journal of Health Services Research and Policy* 25(3):202-21. <https://doi.org/10.1177/1355819619888244>

Barber SL, O'Dougherty S, Vinals Torres L, Tsililaajav T, Ong P. Other considerations than "How much will Universal Health Coverage cost." *Bulletin of the WHO, Special Issue on UHC*, 2019. (Online First Version: https://www.who.int/bulletin/online_first/BLT.19.238915.pdf?ua=1)

Barber SL, Lorenzoni L, Ong P. Institutions for health care price setting and regulation: A comparative review of eight settings. *International Journal of Health Planning and Management* 2019;1–10. DOI: 10.1002/hpm.2954

Evans et al. (2019) Service Delivery Models to Maximize Quality of Life for Older People: A Rapid Review. *Milbank Quarterly* 97 (1): 113-175. <https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1111/1468-0009.12373>

Sato H, Kondo S, Masahisa S, Ryuichi S (2019). Effects of strengthening the hip flexor muscles on walking ability and the locomotive syndrome rank test: An intervention study. *Journal of Orthopaedic Science* DOI: <https://doi.org/10.1016/j.jos.2019.09.014>

Barber SL, Ong P, Nozaki S (2018). Universal Health Coverage and the Renewal of Primary Health Care. *Journal of International Health* 33 (2) https://www.jstage.jst.go.jp/article/jaih/33/2/33_93/article-char/en

Barber SL, Kumar A, Roubal T, Colombo F, Lorenzoni L (2018). Harnessing the private health sector by using prices as a policy instrument: Lessons learned from South Africa. *Health Policy* <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/29622381>

政策概要

Cylus J, Roubal T, Ong P, Barber SL. The Economics of Healthy and Active Ageing. Sustainable health financing with an ageing population: implications of different revenue raising mechanisms and policy options. European Observatory on Health Systems and Policies and the WHO Centre for Health Development, 2019.

https://extranet.who.int/kobe_centre/sites/default/files/pdf/Sustainable_health_financing_with_an_ageing_population_0.pdf

Williams G, Cylus J, Roubal T, Ong P, Barber SL. The Economics of Healthy and Active Ageing. Sustainable health financing with an ageing population: will population ageing lead to uncontrolled health expenditure growth? European Observatory on Health Systems and Policies and the WHO Centre for Health Development, 2019.

https://extranet.who.int/kobe_centre/sites/default/files/pdf/ImpactofAgeingonHealthExpenditures.pdf

WKC のプロジェクト最終概要

- AP Centenarians: learning from the experience of Assistive Product Use among Older People (https://extranet.who.int/kobe_centre/en/project-details/experiences-assistive-products-use-among-older-people-japan-2)
- Development of methods to promote assistive technologies to enhance quality of life of older people (https://extranet.who.int/kobe_centre/en/project-details/assistive-technologies-enhance-quality-life-older-people)
- ICF-based assessment tool development for care skill training in Japanese long-term care system (https://extranet.who.int/kobe_centre/en/project-details/icf-based-assessment-tool-development-care-skill-training-japanese-long-term-care-system)
- Community based social innovations for healthy communities in Japan (https://extranet.who.int/kobe_centre/en/project-details/CBSIJ)
- Analysing data availability and policies in Myanmar for the progressive realisation of UHC in light of population ageing (https://extranet.who.int/kobe_centre/en/project-details/asean_myanmar)
- Systematic review of effective health system responses for the prevention and control of non-communicable diseases in Asia (https://extranet.who.int/kobe_centre/en/project-details/MHQ)

研究公募

- 保健医療における価格設定と価格統制—UHC 推進にむけた教訓／日本、韓国、タイ、マレーシアでの国別ケーススタディ（OECD フェーズ 1）。公募期間：2018 年 7 月 20 日～8 月 1 日。2018 年 8 月に選考。4 件の研究提案を採用。
- 高齢者の継続的なケアにおける価格設定／日本および韓国での国別ケーススタディ（OECD フェーズ 2）。公募期間：2019 年 8 月 1 日～8 月 23 日。2019 年 8 月に選考。2 件の研究提案を採用。
- 進行性慢性疾患を抱える高齢者の生活慢性疾患の質や保健サービスの利用を最大限に向上させるサービス提供モデルの構築。公募期間：2019 年 2 月 26 日～3 月 29 日。2019 年 4 月に選考。2 件の研究提案を採用。

2018 年 6 月：東京大学において国際シンポジウムを開催し、高齢者の支援機器およびサービスの重要性に対する意識を高め、一般市民に研究計画を公開してインプットやフィードバックを受けました。